

## 「地方選挙での立候補者と地域住民」

第 8 期 第 7 回 平成 1 月 12 日 (土)

塾生 No.10 浅野 健

田中勝士岐阜県議会議員が、「地方政治と選挙」について述べられた。

田中議員は熊本県のご出身であるが、岐阜県での立候補を志し、平田けんじ参議院議員の公設秘書を経験されてから、岐阜県議会議員になられた少し異色の議員である。

そのため、選挙の表も、裏の事情も大変にお詳しく、以下の 8 箇条を述べられた。

- ① 人間関係や立場に応じての配慮を行う。自分自身の支援者か、スパイか見極める。
- ② 思いついたことは、思い切ってやってみる。
- ③ まずは立候補者自身が明るい気持ちで、前向きでいると、周囲も明るく雰囲気は良くなる。
- ④ 違反や事件が起きると、住民は関わらなくなってしまう。
- ⑤ 飲食や金銭等の授受は厳しくする。
- ⑥ 選挙相手側への批判は慎重に行う。
- ⑦ 票を持っているという人を信用しない。
- ⑧ 企業訪問では取引先の利害関係で、圧力を掛けられていると感じている場合がある。

紙面の制約上、例えば④について、平成 12 年当時には岐阜県では柳津町長が収賄、武藤嘉文の後援会長が選挙運動違反、岐南町長が支援者への叙勲の口利きと選挙違反が起き続けていたそうである。そのため地域の住民へは選挙は怖いものと広まってしまった。

しばらくは選挙の投票はともかく、支援する立候補者を応援したいという雰囲気が崩壊していた。それだけに、立候補する者も、それを支える周囲の関係者も選挙で間違いのないように、起こらないようにする責任は大きいですが、選挙での間違いは誰にでも起こり得る。

昨年の選挙において、私は岐阜市長選を立候補者の直近で手伝っていた。立候補者のご家族と地域をまわる際に、ある支援者の住居の陰に招かれて、金銭を立候補者へ直接手渡されそうになった。勿論、私達は必死で、断るよう説得して、意図の不明な物は受け取らせなかった。

このような事態に備え、立候補者は一人での行動を極力において避ける。周りも立候補者を一人にさせては絶対にいけない。立候補者の行動、アリバイは常に把握しておくのは最低限の必須事項である。仮に、残念な結果に終わった時でも、立候補者を支えるのは周囲の人間である。

最後に、田中県議会議員の言葉から、「敗戦した場合でも、分断した地域を修復させるまでが選挙である」という言葉が重くのしかかった。

支援してくれた人々への対応がどれだけ誠実に、丁寧に行えるかで次の選挙に繋げられるか、そこですべてを失うかが決まるようである。

以上のことを踏まえて、私は次の選挙に活かしていきたい。

以上

平成 31 年 1 月 19 日 (土)

掲載可